

アズロカのNPO

管理職クラスの就職支援

景気にかかわらず、高齢者の就職は難しい。日本では年齢を理由に雇用を拒否する会社が多いが、アメリカでは年齢を理由に高齢者を差別することは雇用差別撤廃法で禁止されている。

今回は、AARPPがネットワークを組んでいるNPOの一つ、プロス（PROS）と、高齡市民支援ニューヨーク財団を紹介する。

プロス代表としてジョハ

アの会議に出席するのは、ビル・ファンクさんである。プロスというNPOは、主に専

門家や重役レベルの人に転職をあっせんするプログラムを行っている。政府から補助金を得ているため、転職希望者及び雇用する企業は、無料でサービスが受けられる。

ジョハブで就職する人

は、比較的低い給料の人がほとんどであるのに対し、プロスは高給で管理職クラスの人のみを対象としている。つまり、ファンクさんはAARPPのプログラムを自発的にボラ

NPOと行政の連携 >下<

ンティアとして自分の仕事に組み入れているのだ。NPOだからそのようなボランティア的活動も可能にしているのかもしれない。

ジョハブネットワークの団体はすべてメンバーの旺盛なボランティア精神によって成り立っているが、その典型的な例である。

日本女性も入所している。その就業は、二十一世紀の大

目に見える形で実施

高齢者にもIT教育熱

マルレン・スティールさんは、高齢市民支援ニューヨーク財団のジョブデベロッパー（仕事開発担当）である。高齡市民支援ニューヨーク財団は、ニューヨーク市内のマ

成金を得て高齢者の就業訓練、就業支援を行っている。サービスの利用でできるのは高年齢者のみだが、コンピュータ教育はいつも人気がある。

医療が発達し、寿命が伸びている現在、何歳になっても仕事を続けたい高齢者数が増加している。半面、ニューヨ

者の就業は、二十一世紀の大（ウイマラシリ・ヒロミ AARPPボランティアコンサルタント）



(上) プロス（PROS）のビル・ファンクさん
(右) 高齡者市民支援ニューヨーク財団仕事開発担当、マルレン・スティールさん